

令和6年度 学校評価報告書

長崎市立山里小学校

1 教育目標

やさしさと思いやりで 笑顔がいっぱい ～本物の笑顔あふれる山里小～

2 学校経営方針

めざす子ども像 ○や～やさしく思いやりのある子ども ○ま～まわりのことを考えて行動する子ども
○ざ～最後までやり通すたくましい子ども ○と～友達と共に学び、認め合う子ども
めざす職員像 ○「主体的・対話的で深い学び」を創造する教職員
○一人一人の子どもに寄り添い、認め励まししながら子どもを伸ばす教職員
○互いの職と役割を認め合い、プロ意識と信頼でつながるチーム山里小
めざす学校像 ○子どもも大人も学んで成長する学校
○期待を胸に登校し、安心して安全に過ごし、笑顔で帰る学校

3 重点目標

- (1) 被爆体験の継承と平和の発信、そして平和の創造の具現化を図る。
- (2) 支援を要する児童をきめ細かに指導し、特別支援教育の充実を図る。
- (3) 現行学習指導要領の確実な定着を目指して、日々の授業改善に努め、さらなる学力向上を図る。
- (4) 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、いじめの早期発見・早期対応を行う。
- (5) よりよい関係や支持的風土を築く。
- (6) 進んで運動に親しみ、健康でたくましい心身の育成を図る。
- (7) 環境が人をつくり、人が環境をつくることを認識し、教育環境の充実を図る。
- (8) 学校は地域の中の一員であることを自覚し、開かれた学校づくりに努める。
- (9) 連携教育の充実を図る。
- (10) 教職員同士の対話や行動を推進し、仲間意識の向上と働き方改革への意識向上を図る。

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	94	100	96	○教育目標「やさしさと思いやりで 笑顔がいっぱい ～本物の笑顔あふれる山里小～」については、児童、保護者、職員ともに意識し、その達成のための取組が成果に結び付いていると捉えられる。特に保護者の肯定的割合の100%は職員にも励みになる。 ○学校の雰囲気は、児童、保護者は高評価であり、しかも、職員の数値は100%であるため、現在の状況を維持していきたい。 ○校務分掌では、職員間の連携が十分に機能しており、概ね適切であったと判断する。 ○「校務の縮減・効率化」については、「働き方改革」の取組が広がり、学校現場でできる限りのことに取り組んできた結果、肯定的評価が昨年度の91%からさらに伸びが見られた。校務の縮減・効率化、業務の改善は、これからも、職員の声を拾いながら見直しを行い、さらに改善に努めていく。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	91	98	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			96	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			96	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	95	100	96	○生活委員会を中心として、挨拶強調月間や挨拶名人の表彰などにも取り組んだ。今後も教職員が進んで挨拶していくことで児童の挨拶向上につなげていく。また、今後も毎月の生活目標を充実させ、基本的な生活習慣をさらに身に付けさせていきたい。 ○あ・は・は運動は、他と比べるとかなり低い値ではあるが、昨年度の保護者の肯定的割合が60%だったことを考えると学校だよりや生活指導のプリントの配布の際に、あ・は・は運動について載せた効果が出ていると思われる。来年度も継続して周知を図りたい。 ○いじめ防止には、学校としてかなり取り組んでいる。保護者の評価は昨年同様80%台ではあったが、昨年度より7ポイントもアップしたことは学校の取組が伝わっていると考えられる。今後も「学校だより」等を活用して、学校がいじめ防止のために取り組んでいることを保護者へ知らせしていく。 ○平和教育の評価が高いのは、力を入れている本校ならではの結果だと受け止めている。今の取組を、今後も続けていくことが大事だと考える。 【特別支援教育】 ○今年度は年間を通じての巡回相談と必要に応じて校内支援委員会もかなりの回数を行った結果、数多くの対象児童の支援を行うことができた。
		挨拶をよくしている	93	88	81	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	85	70	92	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	95	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	89	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	98	96	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	96	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	93	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96	99	100	○1年を通して平和教育を行い、年3回の平和週間や平和ウォークラリー等を通じて学びを深めている。 ○令和6年度版の学力向上プランを作成しているので、活用していく。(改善策を明記) ○昨年度は児童、保護者とも肯定的割合が80%台だったが、どちらも90%以上となっていることで、家庭学習の習慣が着実に身に付いてきている。宿題でのAIドリルの活用などが定着していることもその要因の一つだと考える。今後も家庭学習のさらなる定着のため、様々な取り組みを考えていきたい。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	94	89	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	92	93	100	
		AI型教材(キュビナ)は学力向上の役に立っている	92	72	91	
		将来の自立に向けて適切に指導している	86	90	88	
	キャリア教育	長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	94			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	95	98	100	○メディア安全指導教室は、授業参観日以外に行ったため保護者の参加はかたまり少なかった。来年度は、授業参観や宿泊学習説明会などの直前に設けることで、保護者の参加が増えるような工夫を必要がある。 ○本校は年に3回けんきアップカードを実施している。カードを配付する前に、学級で指導を行うことで、前向きに取り組むように促す。 ○教職員の評価が最も低い体力向上について、校務用サーパー内に毎時間分の指導案（細案）を活用し体育科授業の充実を図っている。また体育の授業の初めに3分間走を全校での取組を行っている。少しずつではあるが、体力向上に向けて、意欲付けや達成感を得る機会を増やしていきたい。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	87	94	100	
		体力向上に努めている	92	81	69	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	95	92	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	97	91	96	○安全管理について、施設上の問題でケガが発生することはない。今後も安全点検を継続して、しっかり行っていく。 ○学校だよりや学年・学級通信等で、保護者への情報提供は十分にできている。安心安全メールやTeToRuも十分に活用できている。 ○PTA主催の行事（ボランティア清掃）や育成協主催行事を行うことができたことが良かった。 ○校内研究の面では、長崎市の研究指定を受け、教育データ活用推進校としてAI学習ドリルを使った授業改善を行い、高い効果を得たものと思う。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる		97	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている		94	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている		92	92	○ICTの普及により、教育環境としては年々改善されている。校舎内でも少しずつ環境整備は進んでいるが、生活科室やメディアルーム等の整備を進めていく必要がある。休業期間中に職員作業を行う等、計画を立てていく。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			96	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○全体的には「概ね良好」という評価であった。「学校を楽しい」と評価している児童が2年連続で90%以上となっている。今後も児童にしっかりと目を向けきめ細かな指導を継続したり、毎月行っているアンケートなどで楽しくないと思っている児童の要因を探って対応策を考えたりしていくことで、学校を楽しいと思う児童が100%となることを目指していきたい。「心の教育」の中のルールやマナー、あいさつといった児童の規範意識に関しては、職員と保護者・児童の間に意識のずれが見られた。確実に児童の姿は望ましい姿に近付いているが、一部の回答で教職員より保護者の評価が厳しいものに関しては、教職員が保護者の期待に応えられるよう取り組んでいくことと現在の取組をしっかりと保護者に周知することに努めていきたい。

○学校評価終了後、領域別に担当を決め、「結果の分析」→「改善策の検討」→「職員への提案」→「全職員で取り組む」という流れで学校評価を活用している。肯定的評価が「80%」を切る項目がほとんどないが、あ・は・は運動を知っている（保護者・69%）、体力向上につとめている（教職員・69%）については、「4 自己評価」の「分析及び改善策」の欄に記載したような実践を行うことで、改善を図っている。

6 学校関係者評価

○業務の改善に関して、様々な調査やアンケートなどが減ってきている現状を説明し、少しずつ教職員の働き方改革が進んでいることについて理解をいただいた。

○いじめ防止に関して、担任が一人で抱え込まずチームで動くことができるよう職員間で相談しやすい環境をつくっておくことが大切であることとデジタル相談窓口などがあると保護者の安心感につながるのではないかとということなどの提言をいただいた。

○体力向上について、体力向上プランや全学年で取り組んでいる3分間走や縄跳びなどの取組について評価していただいた。学力もだが体力も大切であるため、引き続き力を高めてほしいとのことであった。

○キャリア教育の長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きであるかのアンケートについて、転勤族が多く、郷土に対する思いをどのように考えているのかを知るために、保護者や職員にも実施してほしいという要望があった。

○PTA加入率についても尋ねられた。メリットが実感しづらい部分がある。現在加入している人たちが実のある活動にしてほしいとのことであった。

○大まかには、今回の学校評価の結果について、理解していただくことができた。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○職員は、児童、保護者、地域との信頼関係を損なうことのないように努め、これからも児童が安心して通うことのできる学校づくりを進めていく。

○保護者や地域の声を真摯に受け止め、学校目標達成のためのPDCAサイクルの中に生かしていく。

○今回ご指摘いただいたり、要望されたことは、前向きに取り組んでいく。取組が反映できるように来年度の学校評価アンケートの改善も進めていく。

○学校で取り組んでいることを、保護者・地域に周知できるように、発信の仕方をさらに工夫していく。